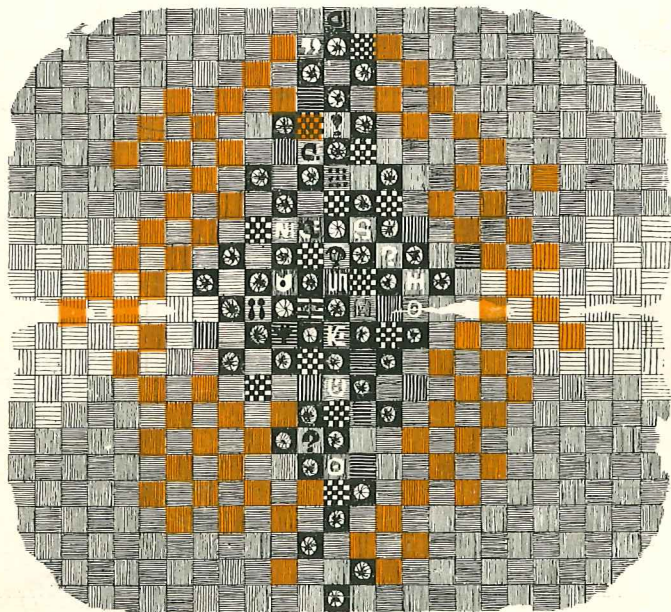


# 成蹊会誌

成蹊学園創立50周年記念祝詞 1 青葉翰於  
恩師謝恩会 2 謝恩会に列席して ●佐藤順先生  
坂本静江先生 藤原安治郎先生 三上和一郎先生  
成蹊学園近況 12 会員消息 16  
成蹊会基金・会費申し込み者芳名録 27



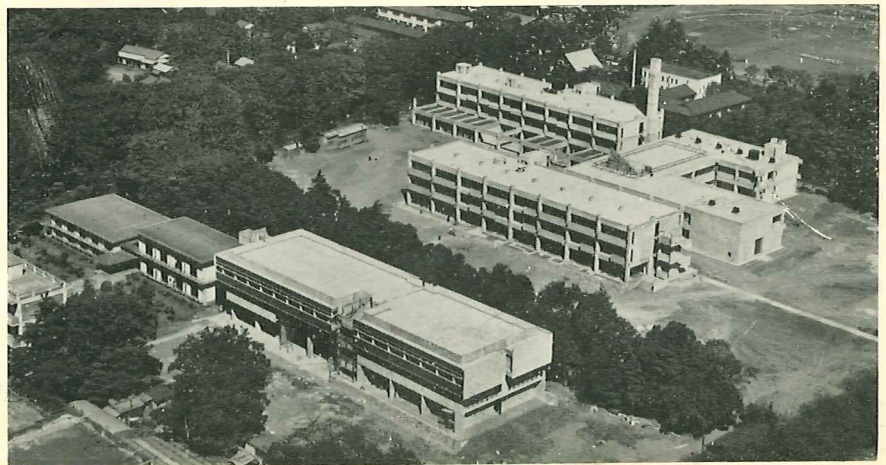
1963年3月 第21号



第五回恩師謝恩会(昭和37年10月28日)  
左から 佐藤 順 坂本静江 三上和一 藤原安治郎 上原義雄(代理)の諸先生



恩師謝恩会に集つた会員 (於 成蹊学園講堂)



成蹊学園50周年記念事業 工学部・政治経済学部の新校舎

## 成蹊学園創立五十周年祝詞

### 成蹊会々長

### 青葉 翰 於

この学園の同窓会である成蹊会の会長といたしまして卒業生を代表して一言御祝いの言葉を述べさせて頂きたいと存じます。先程来御話のありました通り明治四十五年池袋の地に源を発した成蹊教育が五十年の星霜を経て今日このような立派な学園にまで発展したのであります。ことに記念すべき五十年年に当り工学部の設置をはじめ各種の記念事業が着々進行しておりますことは誠に御同慶に堪えない処であります。ここにお集りの皆様方は今日このよき日を心から喜んでおられる方々ばかりであります。本学園各学校の在校生諸君は勿論教職員の諸先生方並に学園の理事者の方々更には父兄方および我々卒業生に至りますまで学園として半世紀に一度のお祝いを喜んでいるのであります。そして今日このよき日を最も喜んでおられますのは今は亡き創立者中村春二先生、岩崎小弥太先生、今村繁三先生のお三方だろうと思えます。又学園の草創期から中村先生を助けられて御苦労をなされた奥様の中村小波先生には御元気でこの式典に参列されておられますがその御喜びはいかばかりかと拝察致す次第であります。一月ほど前に英国の有力な経済雑誌であるロンドンのエコノミストに「コンシンダー・ジャパン」日本に学べと題して目覚しい日本経済発展の秘密は何かと云う論文がのっております。

その答は既に数年前英国の有名な経済学者コーリンクラーク教授が日本に来ました折に東京で行った講演で述べておりました。彼曰く「日本民族が今日の発展をもたらした最大の原因は約百年前に明治政府が教育を徹底的に普及する政策をとったからである」と云うのであります。たしかにコーリンクラーク教授の着眼点は正しいと思います。しかし、その明治教育が約半世紀を経て知育偏重の形式主義に墮してきた折に明治四十五年中村春二先生は体験教育と個性尊重の新教育を標榜して立たれたのであります。初期の成蹊学園で行われた各種の行事、例えば朝の馳足や凝念、園芸や草取りなどの作業、自炊生活の寄宿舎、山登り、断食会等々はいずれも私共にはよい体験でありました。「桃季言わざれども下自ら蹊をなす」の言葉が示すように不言実行がその精神でありました。私は大正七年から十二年まで実務学校で御世話になりましたが、その当時中村先生は毎朝五時半からやる朝の馳足には真冬でもはだかです。今でも写真が残っていると思いますがみじかい半ズボン一つだけ身につけて、はだかではだしの馳足は雪の朝など誠に壮烈なものであります。このように先生は若いものに伍してと云うよりは卒先垂範された御無理がもとで御健康を害され、大正十三年二月四十八才の若さで亡くなられたのであります。先生は文字通り教育のために身をなげうたれたのであります。中村先生はお命ばかりではありません。中村家は御先代以来相当の財産家であられたのですが先生は成蹊教育を実現するためにその私財をすべて傾けられたのであります。この中村先生の教育に対する理想と情熱に動かされて親友だった岩崎、今村両氏が

力強い応援をされるようになったのです。このお二人の厚い友情が中村先生の理想を果らせて今日の成蹊学園の大をなすに至ったのであります。岩崎、今村両先生はいずれも実業界に大きな足跡を残された方々であります。それにもまして末永く両先生のお名を留めるものは成蹊学園の創立者功勞者と云うことでありましょう。中村、岩崎、今村のお三方はほんとうによい友情で結ばれた美談でもありません。最近の日本経済は先ほど申し上げましたように、ロンドン・エウノミストがうらやむほど目覚ましい発展をとげております。終戦約十七年を経て戦争の経済的傷跡は完全に拭い去られて更に躍進期に入ったのです。しかし乍ら日本国民の精神面にはまだまだいたましい傷がのこっています。新聞紙には毎日強盗や殺人の記事のない日はありません。東京の郊外では夜は女の一人あるきも危い始末です。戦前の上海とそっくりではありませんか。池田首相は人造りの必要を唱道しておりますが、少し手おくれの感があります。しかし今からでも国民こぞって人造りに専念すべきだと思ひます。今日の日本の教育も明治末期と同様に知育偏重の弊が社会悪として表面化して来たと言つても過言でないと思ひます。今や成蹊学園は五十周年を機として中村先生の体験教育を再発見すべきだと申し上げたい。時代がちがうのですから勿論方法は異つてよいのですが、中村先生の御精神を生かして今日の成蹊学園がわが国の教育界に新風を送つて頂きたいと思ひます。これはお願いするばかりではなく私共卒業生といたしましてでもできますことは何なりと御手伝ひさせて頂きたいと考ふる次第であります。それは中村先生をはじめ岩崎先生、今村先生のお三人に対して御恩の万分の一にも報ゆる道だと信ずるからであります。これをおもひまして私の御祝詞に代えさせて頂きます。御

清聴有難う御座居ました。  
——この文は昭和三十七年十月二十八日に開催された成蹊学園五十周年記念式典において卒業生を代表し述べられた祝詞であります——

### 昭和三十七年度 (第五回) 恩師謝恩会

この謝恩会は成蹊会功勞者謝恩顕彰規程に基いて催され永年に亘り成蹊教育に尽瘁された特別会員の先生に感謝の微意を表し、併せて、会員から寄せられました、謝恩の為の寄附金を贈呈するものであります。すでに第一回(昭和三十二年)以降三十四名の先生方をご招待申し上げておりますが、今回は次の五名の先生方をお招き申し上げました。  
なお、この謝恩会は毎年十月一日開催を恒例としておりますが、今回は成蹊学園五十周年記念の祝典が昨年十月二十八日に行いましたので、当日学園内において行いました。

- ご招待の先生  
上原 義雄先生 (六十七才)  
佐藤 順先生 (六十八才)  
坂本 静江先生 (七十才)

藤原安治郎先生 (六十七才)  
川上 和一先生 (六十八才)  
寄附者数 二八〇名  
先生別寄附者数 四〇九名

追つて(一)寄附金額と先生方に対する贈呈額との差七三、〇〇〇円は本会が支出いたしました。(二)この謝恩会並びに募金事業の諸経費(郵送料、印刷料、振替手数料、当日費用等)は一切本会で負担いたしました。

### 恩師謝恩寄附者芳名録

八千円	市吉庸浩	金谷節一郎	川島一郎	河田信三郎	多川弘一郎	滑川道夫
六千円	見玉九十	田中栄一郎	木戸瓊太郎	久保田博	丹羽孝三	馬場知己
五千円	竹内端夫	藤村陽一	煙山光臣	小池五郎	渡辺八郎	
四千円	星野佑子	水谷政静	島田正雄	桜井香代子	一千元	
三千五百円	村上正夫	井上政子	杉山正雄	下村真理子	青葉翰於	青山太
三千円	安生浩	八田昌明	住田正二	鈴木清子	秋間正三	井上茂
二千五百円	田坂耕一郎	井上政子	武田静子	高尾泰弘	有馬烈三	池田純一郎
二千円	三浦経太	井上政子	谷村秀等	津屋恭也	池原徹	池田純一郎
一千五百円	藍沢吉雄	青木周吉	徳永吉晴	中村和夫	岩橋俊	石原宏
一千円	赤司厚子	浅野良一	谷村吉晴	永池暁三	板橋森男	池田純一郎
五百円	猪股清	上野良二	徳永吉晴	星野毅子郎	植田仁	岩永源作
三百円	梅谷進	小幡謙三	久我良範	本間とし子	尾上正明	梅地慎三
二百円	奥村哲男	貝島弘人	香取英二	宮野好太郎	大西雄次郎	翁長一彦
五十円	海江田信和	直子	岩崎英二	渡辺誠一郎	大原申三	大類袈吉
三十円	井上利見		奥田愛子		大原申三	大類袈吉
二十円	池田弘		岸弘子		大原申三	大類袈吉
十円			倉橋三千夫		大原申三	大類袈吉